

高齢透析患者の透析量を再考する

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック 大村腎クリニック

○河野史堯 矢野利幸 高木伴幸 澤瀬健次 橋口純一郎 前川明洋 原田孝司 船越 哲

【背景】

当院では、独自の「透析効率評価シート」を用いて $KT/V > 1.4$ を目指す取り組みを実施しているが、高齢者も一律に評価してよいかの検討が必要と考える。

【目的】

全年齢層で $KT/V > 1.4$ を目指す妥当性について検討する。

【対象・方法】

透析患者を、非高齢群、前期高齢群、後期高齢群、超高齢群の4群に分類し、透析条件等を比較した。

【結果】

非高齢群と超高齢群では、透析時間(4.3、3.5h)、血流量(233、194ml/min)、GNRI(93.7、85.3)は超高齢群で有意に低値($P < 0.01$)であったが、 KT/V (1.51、1.47)に差は認められなかった。

【考察】

非高齢群と比較して、超高齢群を比較では主治医の判断により低血流量・短時間透析となっていたが、両群間に有意な KT/V の差が認められなかった。加齢による基礎代謝低下等から現行の透析条件が超高齢透析患者にとって妥当である可能性があり、今後、高齢者への尊厳を重視しながら、年齢に応じた透析効率評価を検討したい。